

2017年3月期 第3四半期 業績概要

橋本 裕一

アンリツ株式会社
代表取締役社長 グループCEO

2017年1月31日



東証第1部：6754
<http://www.anritsu.com>

Anritsu
envision : ensure

(ノート部記載なし)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目次

- I. 事業概要
- II. 2017年3月期第3四半期 連結決算概要
- III. 2017年3月期 通期業績予想（連結）
- IV. その他

(ノート部記載なし)

I. 事業概要

T&M事業
開発・製造・建設・保守用



- ▶ モバイル市場 : LTE, 3G
- ▶ ネットワーク・インフラ市場 : 有線・無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場 : 電子部品、無線設備

PQA事業

- ▶ 食の安全・安心
- ▶ X線異物検出機
- ▶ 重量選別機



その他

- ▶ IPネットワーク機器
- ▶ 光デバイス



(セグメント別売上比率) 2016年3月期 実績(連結) : 955億円

| | | | | |
|--------------------|--------------------|-----------------|----------------|---------------|
| T&M 71% | | | PQA 20% | その他 9% |
| モバイル 45% | ネットワーク・インフラ 35% | エレクトロニクス 20% | | |

(T&M事業 地域別売上比率)

| | | | |
|-----------|-------------------|-----------|-------------|
| 日本 15% | アジア、パシフィック 35% | 米州 30% | EMEA 20% |
|-----------|-------------------|-----------|-------------|

T&M: Test & Measurement PQA : Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

Ⅱ - 1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

(単位：億円)

| 国際会計基準(IFRS) | 前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績 | 当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績 | 前年同期比 増減額 | 前年同期比 増減率(%) |
|--------------|-------------------------------|-------------------------------|--------------|-----------------|
| 受注高 | 699 | 636 | △ 63 | △ 9% |
| 売上高 | 722 | 623 | △ 99 | △ 14% |
| 営業利益 | 52 | 17 | △ 35 | △ 68% |
| 税引前利益 | 51 | 12 | △ 39 | △ 76% |
| 当期利益 | 39 | 7 | △ 32 | △ 82% |
| 当期包括利益 | 42 | 9 | △ 33 | △ 80% |

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

グループ全体の受注高は前年同期比9%減の636億円、売上高は前年同期比14%減の623億円となりました。営業利益は前年同期比68%減の17億円となりました。

当期利益は7億円、当期包括利益は9億円となりました。

Ⅱ - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

(単位：億円)

| 国際会計基準(IFRS) | | 前第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績 | 当第3四半期 連結累計期間 (4-12月)実績 | 前年同期比 増減額 | 前年同期比 増減率(%) |
|-----------------|------------|-------------------------------|-------------------------------|--------------|-----------------|
| T&M | 売上高 | 527 | 426 | △ 101 | △ 19% |
| | 営業利益 | 48 | 7 | △ 41 | △ 84% |
| | (調整後営業利益)* | (52) | (10) | (△42) | (△80%) |
| PQA | 売上高 | 137 | 139 | 2 | 1% |
| | 営業利益 | 9 | 6 | △ 3 | △ 27% |
| その他 (含：内部消去) | 売上高 | 58 | 58 | 0 | △ 1% |
| | 営業利益 | △ 5 | 3 | 8 | - |
| 合計 | 売上高 | 722 | 623 | △ 99 | △ 14% |
| | 営業利益 | 52 | 17 | △ 35 | △ 68% |
| | (調整後営業利益) | (56) | (20) | (△36) | (△65%) |

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

*調整後営業利益：営業利益から一過性の性格を持つ損益項目を排除した恒常的な事業の業績を測る当社独自の利益指標。PQA, その他は調整項目なし。

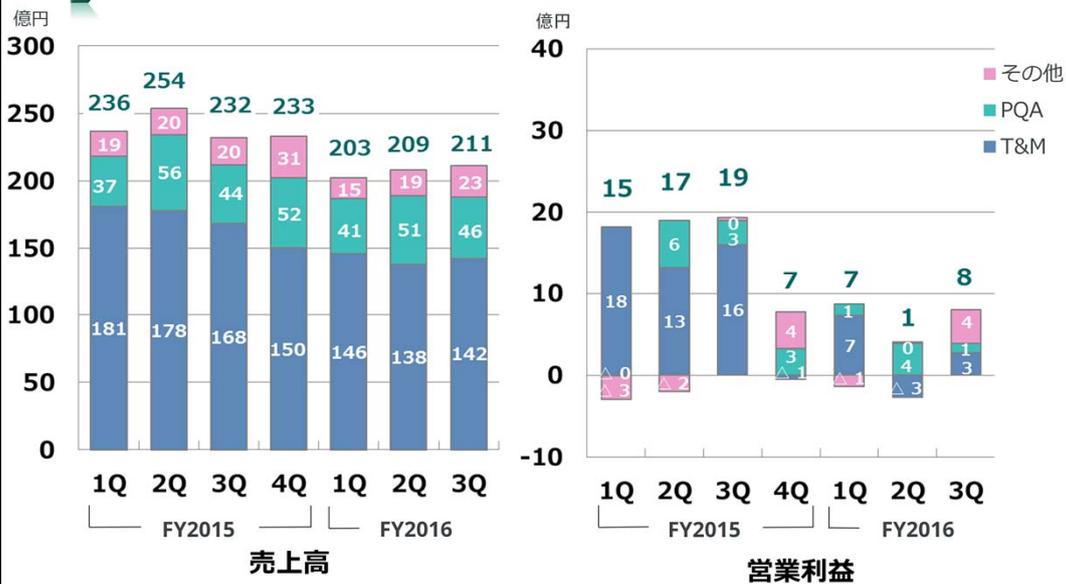
T&M: Test & Measurement PQA: Products Quality Assurance

T&M事業は減収減益となり、営業利益率は1.8%でした。

PQA事業は、売上高は前年並みですが、開発投資等が先行したため減益となり、営業利益率は4.6%でした。

II - 3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 第3四半期の連結営業利益率3.8%、T&M営業利益率2.0%



(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

第3四半期の連結及びT&M事業、PQA事業の営業利益率はそれぞれ

連結 3.8%

T&M 2.0%

PQA 2.4%

となりました。

II - 4. 事業別営業概況

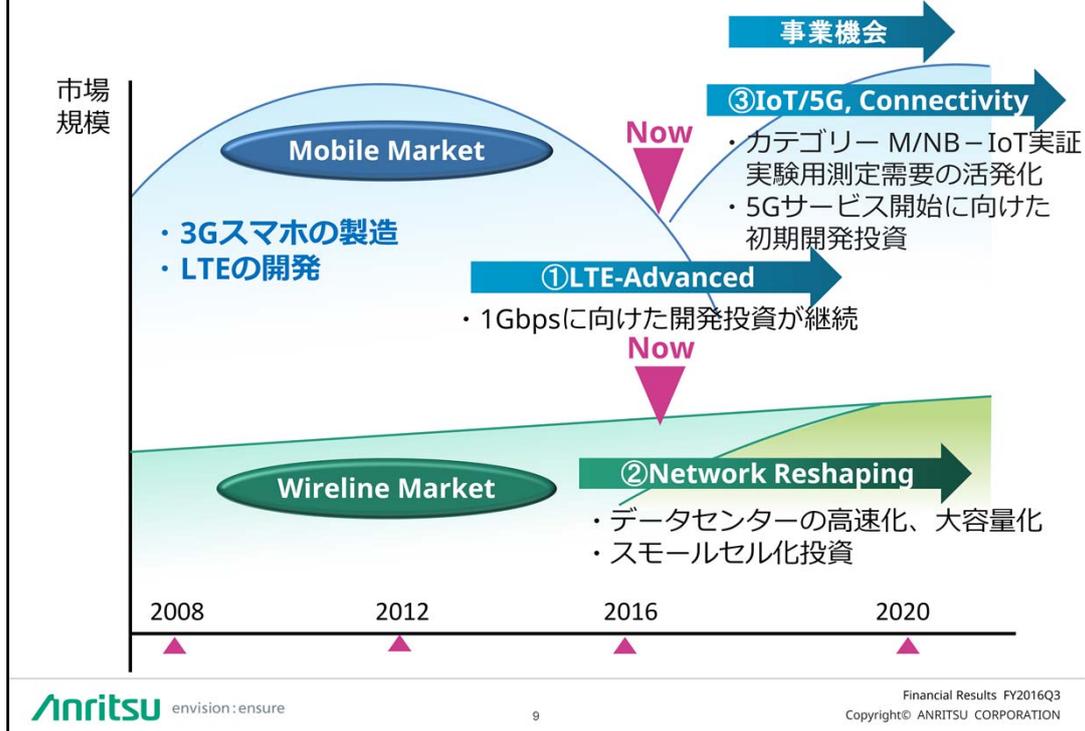
| セグメント | | 2017年3月期第3四半期（4月-12月）の状況 |
|--|---|--|
| ▶ T&M : スマホ関連市場は投資抑制が続く | | |
| モバイル | LTE-Advanced | チップ・端末ベンダーの設備投資抑制継続 |
| | IoT, 5G, Connectivity | オートモティブ・IoT/5Gの開発案件が具体化 |
| NW | 光デジタル関連への設備投資は堅調 | |
| アジア | LTE-Advanced開発投資は抑制気味に推移 スマホ製造市場全体の成長鈍化で競争激化 | |
| 米州 | 光デジタル関連への設備投資は改善傾向 | |
| ▶ PQA : 国内・海外ともX線の需要が堅調 | | |
| T&M: Test & Measurement NW: Network Infrastructure PQA: Products Quality Assurance | | |
| Anritsu envision:ensure | | Financial Results FY2016Q3 Copyright© ANRITSU CORPORATION |

T&M事業は、スマートフォン市場において、一般的に顧客の投資抑制が継続しています。とりわけ、LTE-Advanced関連のR&D市場は慎重な姿勢がみられました。一方で、自動運転に向けた開発競争が激化するオートモティブ市場や、カテゴリーM、NB-IoTといったオペレータ主導のIoT分野の開発案件が、具体化してきています。また、国内・海外の主要オペレータが5G実証実験の計画を発表するなど、5G商用化に向けた動きが具体化しつつあります。

ネットワーク・インフラの高速化投資が活発化しており、光モジュール開発・製造用の計測器の需要は堅調に推移しています。

PQA事業は、国内・海外ともX線検査機の需要が堅調で、全ての地域で伸びています。

II - 5. T&M事業 計測市場トレンドと事業機会



営業概況のとおり、T&M事業の事業環境に大きな変化は無く、スマートフォン関連市場は、依然として投資抑制が続いています。

「LTE-Advanced」関連市場は、一部顧客で1Gbpsのスループット実現(MIMO, 256QAM, CA)に向けた開発を進める動きがみられるものの、全体を牽引する状況にはありません。

「Network Reshaping」関連市場は、データセンターの高速化、大容量化実現のための光モジュール評価用ソリューションの需要が堅調です。100Gbpsの光モジュール製造用測定需要と、さらなる高速化の実現に向けた400Gbpsの光モジュール開発用測定需要が堅調です。

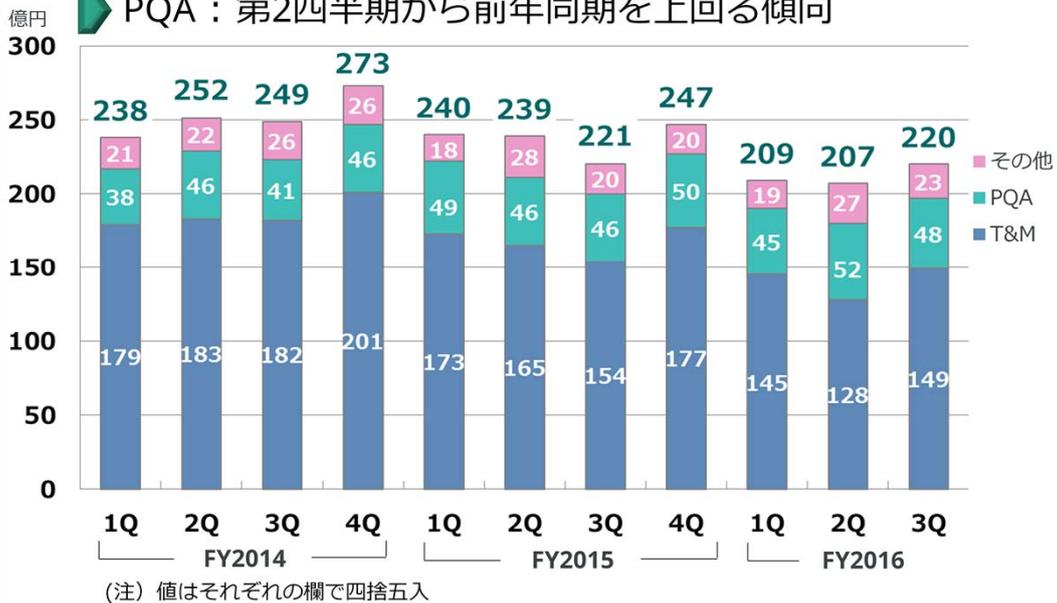
「IoT/5G, Connectivity」関連市場は、開発案件の需要が具体化してきました。IoTに関しては、セルラー系IoTとして3GPPで規格制定された、カテゴリーMやNB-IoTの実証実験が始まっています。

また、5Gに関しては、各国のオペレータから実証実験および商用化のスケジュールが発表され、5Gサービス開始に向けた初期開発テーマが具体化しています。

Ⅱ - 6. 受注高推移

▶ T&M：前年同期からの減少傾向続く

▶ PQA：第2四半期から前年同期を上回る傾向



Anritsu envision:ensure

10

Financial Results FY2016Q3
Copyright© ANRITSU CORPORATION

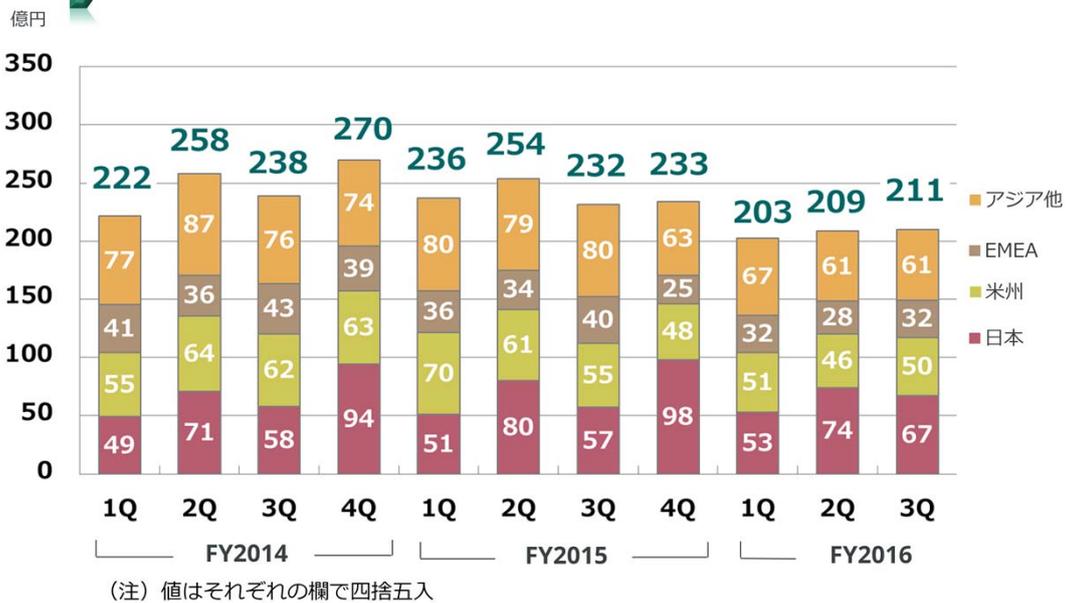
T&M事業の第3四半期受注高は、スマートフォン開発・製造用計測器の需要減少などの影響により、前年同期比3%減の149億円となりました。

PQA事業の第3四半期受注高は、国内外とも計画通りに推移しています。

なお、受注残高はグループ全体で189億円(前年同期比8%増)、T&M事業で130億円(前年同期比9%増)でした。

Ⅱ - 7. 地域別売上高推移

▶ 海外市場で前年同期を下回る傾向が続く



日本市場は前年同期比18%増収の一方、米州市場は同8%、EMEA市場は同20%、アジア市場は同24%の減収となりました。

Ⅱ - 8. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率10%

FY2016 Q3 (累計)

- ①営業CF： 64億円
- ②投資CF： △29億円
- ③財務CF： △27億円

フリーキャッシュフロー

(①+②)： 35億円

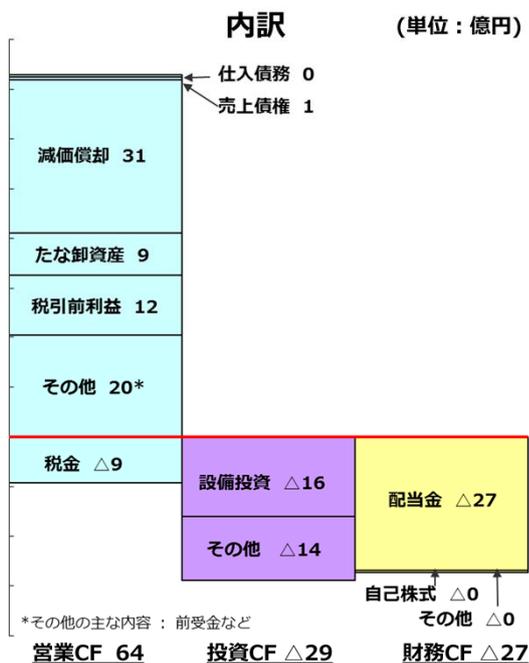
現金同等物期末残高

380億円

有利子負債高

220億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは、64億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローは、29億円の支出でした。

その結果、フリー・キャッシュフローは35億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフロー 資金流出27億円の主なものは、配当金の支払い
27億円(1株配当 6月:12円、12月:7.5円)です。

以上の結果、現金同等物期末残高は380億円となりました。

Ⅲ. 2017年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 前回発表から変更なし

| 国際会計基準(IFRS) | | 2016/3期 | 2017/3期 | | |
|-----------------|------|---------|---------|------------|---------------|
| | | 前期実績 | 通期予想 | 前期比 増減額 | 前期比 増減率(%) |
| 売上高 | | 955 | 875 | △ 80 | △ 8% |
| 営業利益 | | 59 | 22 | △ 37 | △ 63% |
| 税引前利益 | | 54 | 14 | △ 40 | △ 74% |
| 当期利益 | | 38 | 10 | △ 28 | △ 73% |
| T&M | 売上高 | 677 | 585 | △ 92 | △ 14% |
| | 営業利益 | 47 | 5 | △ 42 | △ 89% |
| PQA | 売上高 | 189 | 200 | 11 | 6% |
| | 営業利益 | 12 | 14 | 2 | 17% |
| その他 (含：内部消去) | 売上高 | 89 | 90 | 1 | 1% |
| | 営業利益 | △ 0 | 3 | 3 | - |

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) FY15為替レート : 1米ドル120円、1ユーロ=133円
 FY16期初為替レート : 1米ドル110円、1ユーロ=125円
 FY16下期想定為替レート : 1米ドル100円、1ユーロ=110円

Anritsu envision:ensure

13

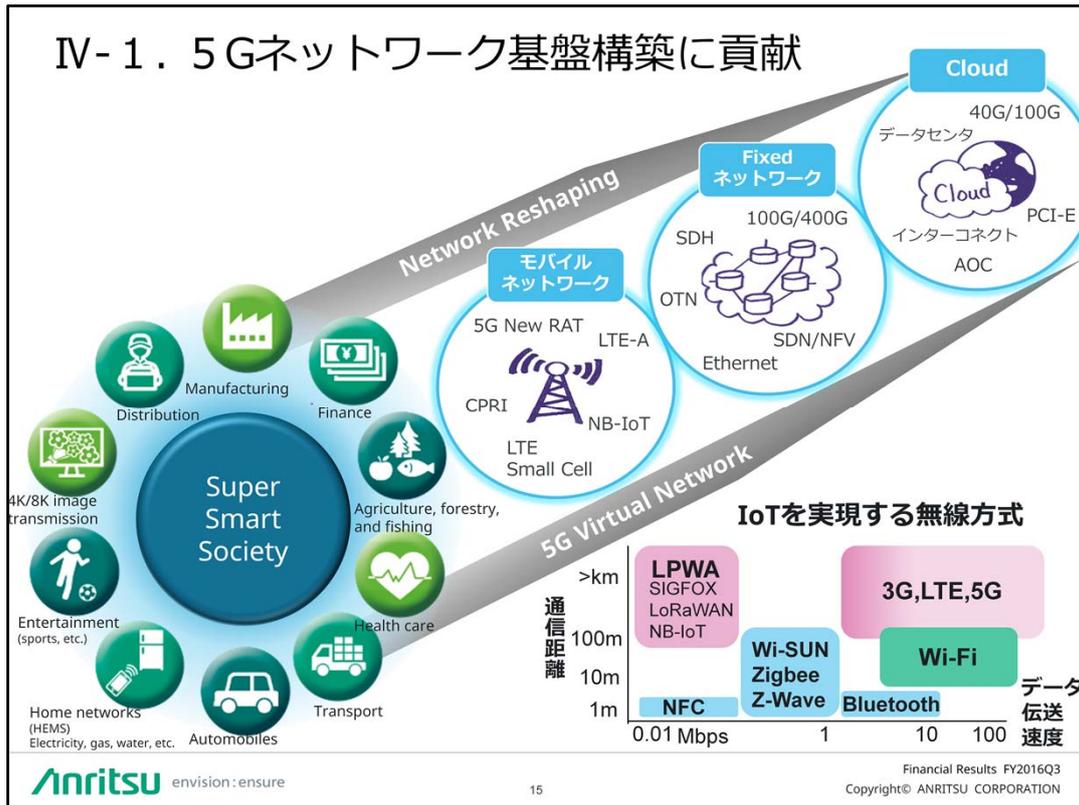
Financial Results FY2016Q3
 Copyright© ANRITSU CORPORATION

2017年3月期の通期業績の見通しは、10月27日に修正発表した計画から変更ありません。

当社グループの主力であるT&M事業は、スマートフォン関連市場において全般的に顧客の投資抑制が継続しています。T&M事業の第3四半期の受注状況に改善傾向は見られるものの、未だに力強さに欠ける状況が続いています。一方で、タイムリーに経営構造改革に積極的に取り組んだ成果として、利益体質は改善しつつあります。為替動向も含め第4四半期は不透明および不安定な経営環境が続きますが、公表値目標の達成に全力を挙げて取り組んでまいります。

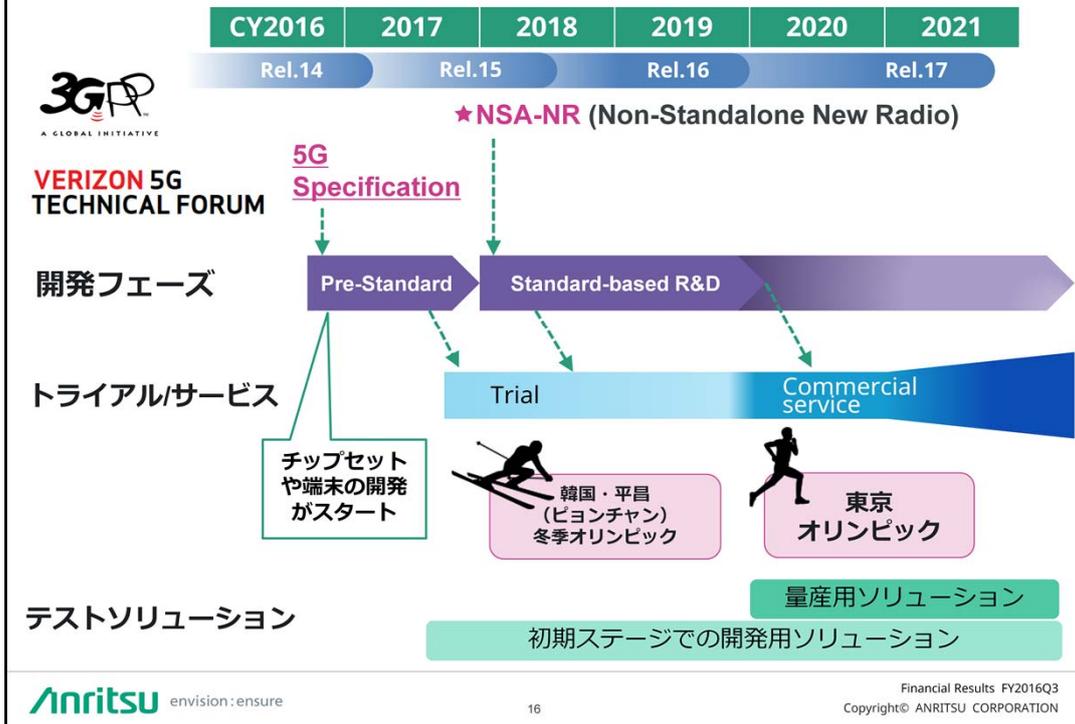
IV. その他

(ノート部記載なし)



スマート社会を実現するためには、スマートデバイスからクラウドコンピューティングまで、このIoT/5Gネットワーク全体をエンド・ツー・エンドで品質を保証し、カスタマー・エクスペリエンスを向上させることが求められます。このネットワーク全体をカバレッジし、ソリューションを提案できることが、アンリツの特徴であり、強みです。

IV-2. 5G最新動向とテストソリューション



5Gの最新動向です。

世界各国の主要オペレータは、5G基礎研究に続き、実証実験から商用化の時期を発表しています。これを受け、多くのチップセットベンダーや端末ベンダーはチップセットの開発をスタートします。5G商用化に向け、全体のスケジュールは前倒し傾向であり、アンリツはこれらのスケジュールに沿ってテストソリューションをタイムリーに提供していきます。ついては2017年度以降に、5G関連計測需要の当社収益への貢献を期待しています。



(ノート部記載なし)